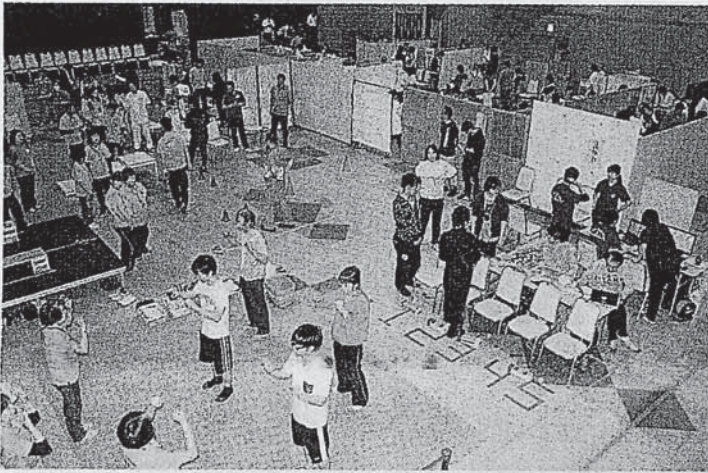


文科省17年度版「科学技術白書」

「弘大COI」を紹介

産官学民で 先駆的取り組み例 疾病予防研究

文科科学省がまとめた「科学技術白書」の2017年度版に、弘前大学を中心とした産官学民で疾病予防研究「科学技術白書」のや住民の健康づくりに「産官学民」が、世界的な潮流である外部の技術や知識を活用しイノベーションを創出する「オープンイノベーション」の先駆的な取り組みとして紹介された。



今年度版科学技術白書は「オープンイノベーション」の加速、産学官共創によるイノベーションの持続的な創出に向けて」と題し、オープンイノベーションの現状分析や今後の取り組みの方向性などを紹介。その中で、欧州などでの動きに触れながら「我が国において

弘大COIの核である岩木健康増進プロジェクト健診は、多くの市民ボランティアや民間企業が加わって行われている。5月27日

でも、オープンイノベーションによる新しい価値の創造と融合によって、社会問題をも解決しようという動きが始まろうとしている」と弘大COIの取り組みを紹介し、「市民、自治体(国)、大学、企業といった全てのステークホルダーが、健康寿命の延伸という社会的な共通価値の創出に向けて協同している例といえる」と記されている。

弘大COI戦略統括の村下公一教授は「イノベーションの創出は、国、地域の成長戦略のキーワード」とし、「岩木での健康プロジェクトを中心とした産官学民が一体となった取り組みが評価された。短命県返上と経済的効果の両面から今後取り組みを進展させたい」とし、弘大COI拠点長の中路重之特任教授は「健康づくりがまちづくりであり、地方創生であることを理解いただいた。いろんな人が集まって、思いを共有した先にイノベーションがある」と話した。(西尾瑛)